

自死・自殺の苦悩に向き合う

超宗派の宗教者が「いのち想う行進」

1に勤務する霍野廣由さんが中心となって企画、本願寺派総合研究所が共催した。

自死・自殺の苦悩を抱える人に思いを寄せ、積極的に向き合おうとする宗教者がいることを発信したいと3

月1日、超宗派で僧侶や牧師ら約30人が「Life Walk 2017」いのちを想う宗教者の行進」を京都市内で行った。

真宗佛光寺派本山・佛光寺から浄土宗総本山・知恩院までの約3キロを練り歩き、市民にアピールした。

今年で2回目。京都府が自死対策の一環で「京都市のちのち」として制定した同日に合わせ、NPO法人京都自死・自殺相談センター

超宗派の僧侶たちは、「疲れた時は疲れ」と言っていていいですよ。悲しいときは悲しいですよ」などと、自死慮者や自死遺族らに向けて書いたメッセージを掲げ、人通りの多い河原町通など繁華街を行進した(写真)。

行進に先がけて、3人の宗教者によるトークセッションが行われ、自死に対する想いを語り合った。

(8面に関連記事)

